

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
発行人 真庭 拓郎  
〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp  
URL : http://www.pref.gunma.jp

## 個に応じた指導のモデル化・単純化

利根教育事務所 管理主監 宇敷 重信

利根教育事務所では、指導の重点に「個に応じた指導」を掲げ、効果的な手法の一つとして「指導と評価の一体化」に視点を当て、その充実に努めてきました。指導主事が訪問させていただいたどの学校においても、評価項目を吟味し、それに照らして子供の学習状況を見取り、かゆいところへ手の届く指導に努めている授業を参観させていただきました。ありがとうございました。

ベストセラーとなった本「バカの壁」(養老孟司 著)の中に、「脳内の一次方程式( $y = a x$ )」という内容があります。脳へ情報  $x$ (入力)が入り、脳の中でその人のもつ  $a$ (係数)をかけて、出てきた反応が  $y$ (出力)である、というモデルです。これを個に応じた指導に結び付けて考えてみました。

$$y = a x$$

**4観点の現有力  $a$**  ……学習内容や学習状況に照らし、客観的・具体的にその子の  $a$ (実態)をとらえる。

[  $a$  は、学習内容や観点によってプラス、マイナス、0に近い場合がある]

**個に応じた指導  $x$**  ……現有力  $a$  ができるだけ大きくプラスに働く(転化する)観点から指導内容や方法を考える。

[  $a$  は、指導  $x$  によって大きなプラスになったりマイナスや0になったりする]

適切な  $x_1 \rightarrow a_1 (>0)$  不適切な  $x_2 \rightarrow a_2 (\leq 0)$

**現れた姿・反応  $y$**  ……目指す姿・反応(評価項目)に照らして指導  $x$  の成果・課題をとらえる。

$a$  の把握の適切さと  $x$  の内容・方法を吟味し、次の指導  $x$  を工夫する。

ずいぶん荒っぽい結び付けになってしまいましたが、常に心に置き、いつでも取り出せるものにしておくには、できるだけ単純化するのでもいいのではないかと思います、敢えて  $y = a x$  にあてはめてみました。

子供に寄り添いながら  $a$  をとらえる眼を鍛え、 $x$  の工夫を重ね、 $y$  をもとに新たな  $x$  を創造していくことが重要であると考えます。学習指導のみでなく、生徒指導、学級経営、地域の教育力の活用、また私達の職能成長等を図るための目標管理においても、 $y = a x$  は活用できるのではないかと思います。

## 学校教育グループ

### 「校内研修」を中核とした授業改善

多くの学校で、校内研修において「指導と評価の一体化」を中心とした授業改善を図るための研修を進めています。以下に実践の一部を紹介します。

#### 評価項目の吟味をおした授業改善の取組例

ある小学校では、校内研修で算数を中心に「筋道を立てて考える子供の育成」を目指しています。特に、集団解決の場面において「子供の考えを比較・検討させること」をおして、筋道を立てて考える能力や態度の育成を図ろうとしました。

校内の授業研究会で、設定してあった評価項目では、ねらいを達成している子供の姿が捉えにくいという意見が出され、話し合われました。その結果、「筋道を立てて考える子供」の具体的な姿として「どのような事実や根拠をもとに説明しているか」を明確にして評価項目を設定すべきだという結論になりました。そして、今後の授業においては、全学年で「思考・判断」の評価項目を「○○や△△などの事実や根拠をもとに(組み合わせる)……」のように説明して

いる」という具体的な子供の姿をイメージして設定し、実践することになりました。

指導の工夫としては、「根拠となり得る既習内容を教室側面に掲示し、それを子供が必要に応じて指し示しながら根拠をもって説明する実践」や「〇〇さんと同じですが、△△という理由も付け加えられると思います。……のように話しあう実践」等が見られるようになりました。

こうした日々の取組を重ね、全職員で検討したB訪問の授業及び授業研究会では、成果を確認し、新しい課題を見いだすことができました。

また、中学校では「指導と評価の一体化」の考えを基にして、教科の壁を超えた建設的な協議や指導案検討、授業研究会を行う学校が増えています。

## 生涯学習グループ

### 「学社連携・融合」の取組 ～社会教育主事等の学校訪問から～

平成14年度より、学校と地域の連携の充実や学校を拠点とした地域の教育力の活性化を図るため、社会教育主事が管内の学校等を訪問し、学社連携・融合の具体的方策などに関する情報提供や相談等を行っています。

今年度は、『学校支援センター』の運営・推進や、学校支援ボランティアの活動・取組等の充実を図るために、担当指導主事と社会教育主事が管内小中学校15校を訪問しました。訪問した多くの学校で、『学校支援センター』を機能させた学社連携・融合による取組を行っていました。

その概要を4つにまとめてみますと・・・

#### 1 多様な支援活動が行われていました。

○地域人材の専門性を活かした学習支援 ○校外学習の引率などの学習補助 ○読み聞かせや学校図書館にかかわる支援 ○登下校の安全確保にかかわる支援 ○学校の環境整備にかかわる支援 ○職場体験への協力 ○放課後の子供の居場所づくりへの支援など

#### 2 コーディネーターを配置している学校が見られました。

コーディネーターは、円滑に活動を進めるためのサポート役を担っていました。

○学校が必要とする外部講師や支援ボランティアを発掘及び紹介する ○相互の連絡や調整を行うなど

#### 3 地域の教育力を活かした効果がありました。

○地域人材の専門性を生かすことにより、授業の質が高まる ○個に応じた支援が可能になる ○教育環境の整備が進む ○子供の安全を確保することができる ○学校への理解が深まり、信頼感や透明性を得ることができるなど

#### 4 地域の方の学習成果や学校への理解が高まりました。

○自らの学びを得る ○自己実現を図る ○学校を理解するなど



各学校における、今後の運営・推進上の課題として・・・

- ◇ 『学校支援センター』の体制づくりや運営の工夫
- ◇ 支援を求める内容の洗い出しと整理
- ◇ 学社連携推進担当の職務の見直し  
などが挙げられます。

今後も『学校支援センター』が充実することにより、学校と地域の双方にとって有益な学社連携・融合の取組となっていくよう、情報提供等をしていきたいと考えています。